

## まえがき

平成 22 年 3 月

農林水産政策研究所

中国チーム

中国が将来の食糧の安全保障をどのような形で実現させようとしているのか、またそれは可能なのかということは世界の大きな関心事としてよいであろう。

中国は、近年、大豆輸入を大幅に拡大させているが、こうしたことはコメ、麦、トウモロコシといった主要穀物でも起り得るのだろうか。経済成長に伴う食生活の高度化は中国の食糧需給に何らかの影響を及ぼすこととなるのだろうか。中国では急速な工業開発等によって農地の改廃、環境汚染等が進んでいるとされるが、このことは食糧の安全保障上の妨げとならないのだろうか。また、最近になって中国が積極的に行うようになった海外でのいわゆる“借地食糧生産”は食糧安全保障という観点からはどのように位置付けられるのだろうか。

中国の食糧安全保障をめぐる問題については、いろいろな疑問が残されており、したがって議論すべき課題も多い。

このため、当研究所では、平成 21 年 9 月に浙江大学経済学院の顧国達教授をお招きしてこうした問題についての現状、課題等をうかがうこととした。

本書の第 1 章は、その講演の際に用いられた論考であり、原文は中国語であったが、同教授の同意の上で、翻訳して収録したものである。現在の中国の食糧生産、貿易の現状についての評価がなされた上で、食糧安全についての将来の見通し、中国がとろうとしている対策とその実現可能性等が記述されている。

本書の第 2 章は、食糧を含めた農業生産を支える農業労働力についての考察を行ったものである。中国の沿海地方を中心とした工業化の著しい進展は、中国農村から多数の農民を農民労働者として吸収するようになっているが、このことは農村での農業労働にどのような変化をもたらしているのだろうか。本章はこうした観点から、農村の農業労働力の現状を整理し、労働生産性の動向等についての分析を行ったものである。

第 1 章および第 2 章とも、中国農業が直面する現在の課題を取り上げたものであり、示唆に富む内容が含まれているものと考えている。中国農業を考えるに当たり、読者のご参考になることを願う次第である。